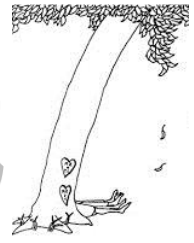




Heart to Heart



輪番制道德～担任外編～

「チーム北城陽中学校」生徒の心に響く道德教育を目指して

本校では、小グループでの学び合い活動(「あい学習」)を効果的に取り入れた授業づくりを行うことにより、自他の考えをより深く共有し合うことができ、生徒の自尊感情を高め、集団や社会の一員としての自覚と責任を育むことができるという研究仮説のもとに研究を進めています。生徒の心に響く指導方法の工夫として、「あい学習」を取り入れることによる、「語り合う」場面の充実が大きな柱となりますが、その際、教員の指導力の向上を図るとともに、生徒の道德性を育む方法として導入している手法が「輪番制道德授業」です。従来、教員にとって道德の授業は、一つの読み物資料で一度しか実施できないため、指導方法について反省はするものの、授業改善にまで至らないことが多かったのですが、「輪番制道德授業」を取り入れることにより、一人の教員が同じ資料を使い、全学級(1, 3年生3学級、2年生4学級)で3回もしくは4回の授業を実施することで、じっくりと時間をかけた授業準備や、授業マネジメントサイクルが可能となります。授業力を向上させることは、生徒の道德性を高めることにもつながります。

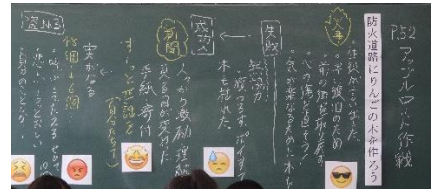
「特別の教科道德」には、他の教科と同様、検定教科書があり、評価もありますが、他の教科と異なる点は、「道德の教員免許」が存在しないことです。つまり、道德を専門に担当する教員はいません。平成20年改訂小中学校学習指導要領によって小中学校に「道德教育推進教師」が設置されることになりましたが、これは道德を専門に担当する教員ではなく、道德教育の計画作りや道德教育の充実を中心となって進める役割を担っています。中学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編」では、第3章道德科の内容 第3節指導の配慮事項 1 道德教育推進教師を中心とした指導体制 (1)「協力的な指導などについての工夫について、道德科の指導体制を充実するための方策としては、全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道德科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。(以下略)」とあります。そこで、本校の輪番制道德は、学級担任だけでなく、学校長、教務主任、生徒指導主任をはじめ、各学年に配属されている副担任が「特別の教科道德」を担当します。学級担任ではない教師が道德を担当することは、教師の専門教科や得意分野などを生かした魅力的な道德の授業を展開できると考えています。また、学級担任が自分のクラスの授業を参観できることから、普段の授業とは違う子どもの一面を発見することができます。さらには、同じ題材の指導を繰り返すことによる指導力の向上をはかるだけでなく、毎週異なる授業者が入るため、多面的な生徒理解も可能となります。また、学級担任が独自に道德をするのではなく、学年全体、学校全体で、道德授業を作り上げている雰囲気が感じられます。

道德の授業は担任の教師が行うのが原則ですが、このように本校では輪番制道德を通して、チームで授業づくりを行うことによって、「深い学び」の実現や、授業力の向上を目指しています。

輪番制道徳を終えて

学年	担当者	資料名	内容
1年生	井寄先生	アップルロード大作戦	郷土愛
	和田先生	国際協力ってどういうこと？	国際理解
	片山先生	あのハチドリのように	自然愛護
2年生	塚田先生	人間であることの美しさ	人間の気高さ
	三浦先生	協力？非協力？	集団生活
	進士先生	看取りの医者	生命の尊さ
	宮田先生	タッチアウト	よりよく生きる
3年生	平野先生	東日本の震災と向き合う	相互理解
	赤田先生	運命の木 姫路城の大柱	伝統文化
	藤井先生	カーテンの向こう	克己と強い意志

夏休みから準備を進め、長年、気にかけていたテーマ「生命・死」を取り上げることができました。国語科の授業とは異なる自分を教室で出すことは緊張すると同時に、やりがいも感じました。道徳の後、国語の授業態度がよくなった学級もありました。 2年副担任 進士恭子



道徳を担当し、社会の授業とは異なる生徒たちの一面を見ることができました。また、生徒たちは自分なりの判断や考え方を発表するなど、一生懸命、考えて、話し合いをしていました。授業者として、たくさんの学びがありました。そして、楽しかったです。 2年副担任 宮田律樹

北城陽中学校の道徳の時間

1年生「アップルロード大作戦」

長野県飯田市は、城下町の面影を残す町並みが保存されてる。昭和22年、大火に見舞われ街の四分の三が焼き尽くされた。この防火道路に「りんごの並木を作ろう」と飯田東中学校の生徒たちが「アップルロード大作戦」を始めた。植樹作業は市民の理解が得られず、生徒たちは悲しく思った。しかし、自分たちの掲げた理想を目指して努力を続けた生徒たちによって、飯田市はりんごの実が輝く街となり、中学校の伝統は、現在も在校生たちに受け継がれている。

「火事の前の町並みに戻したい」、「町の人々の心を一つにしたい」これが、昭和22年、当時の中学生の願いでした。その強い気持ちがりんごの並木となり、それを通して飯田市の人々の心は一つになり、生徒たちの理想は叶いました。壁にぶつかっても、りんごの植樹をあきらめない強い心は簡単に貫けるものではないし、現在でも引き継がれていることに感動しました。(1年)

2年生「タッチアウト」

野球の九州大会出場権を争う決勝戦。最終回裏、アウトにすれば勝利が決まります。主人公はキャッチャーです。ヒットを打たれ、走者が本塁に突っ込んでくる走者にタッチ。審判の判定は、アウト……。優勝、そして、九州大会出場です。しかし、ボールが入っているはずのキャッチャーミットは空。自分の膝の間に挟まっています。審判からは見えなかったのでしょうか……。悩む主人公……。正直に言うか……。言えば、優勝はなくなる……。優勝の喜びにわくチームメイトとは対照的に気持ちが晴れない主人公……。

「運も実力のうち」だと思いました。なので、審判もキャッチャーも悪くないと思います。しかし、私がキャッチャー(主人公)の立場だったら、根に持ったり、落ち込んだりするでしょう。「運も実力のうち」と考え、前向きに生きたいと思いました。(2年生)



3年生「カーテンの向こう」

重症患者の病室内。患者達は自分で起き上がることもできず、看護師も医師も来ない辛い日々を送っている。唯一の楽しみは、窓際のヤコブが、カーテンのすき間から外の様子を眺め、それを話してくれることである。その話は患者達の生きる希望になっていた。しかし、ヤコブしか外の世界を見られないことに対する不満を抱く「私」は、自分が窓際のベッドに移るためにヤコブの死を願う。ついにヤコブは亡くなり、「私」は窓際のベッドに移ったが、カーテンの向こうの景色は壁であった。ヤコブは、病室の仲間達に生きる希望を与えるために、作り話をしていたのである。

「私」はカーテンの向こうが、冷たいレンガの壁しかなかったことを知って、ヤコブ自身も病気を患い、苦しく、寂しい思いをしているのに、他の患者を気づかい、見えることのない外の世界の様子を伝え、希望を与えてくれたヤコブの優しさを感じると同時に、ヤコブの死を望んでいた自分の醜さに気付いたと思う。ヤコブの優しさは、「私」に、そしてまた次の人に受け継がれていくと思う。(3年生)